

平成 27 年度 全国私立中学高等学校

私立学校専門研修会

次世代リーダー育成部会

【実施報告】

***** 研究のねらい *****

「伝統の進化と未来の創造～グローバル時代のリーダーとは～」

少子化や経済不況の影響などにより、学校経営環境が著しく変化する中、学校が未来永劫的に存続・発展していくことは社会的な使命でもあり、そのためには、学校経営者には「変化を読み取り柔軟に対応する能力」、「的確な決断を下すための知識」が求められる。そのような中にあるのは、将来的に学校経営の舵取りを任されることになる経営後継者に求められる役割と責任は大きい。

本部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、これからの時代を見据え、自校と経営後継者自身の理想の将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携し自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得する。また、現職の学校経営者が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、関係者のネットワークづくりや情報交換の場とする。

急速にグローバル化が進む中で、私学はその礎である建学の精神を守るだけでなく、発展・進化させていく必要に迫られている。本年度は、「伝統の進化と未来の創造」をテーマに、グローバル時代のリーダー像について考察していく。

パネル・ディスカッションでは、企業と私学のトップリーダー《開催県企業代表の三田周作・株式会社近畿日本ツーリスト中国四国代表取締役社長、日本私立中学高等学校連合会会長を務める吉田晋・当研究所理事長、東京私学代表の近藤彰郎・東京私立中学高等学校協会会長》を迎えて、経営者・教育者としての思いを聴き、グローバル時代の教育とリーダーのあり方について意見を交換する。午後からは、会場を広島女学院中学高等学校へ移し、スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、国内外で活躍できる実践力あるリーダー育成を目標に据え展開されるグローバル教育の授業視察等を通して、私学のリーダー像を探る。ネットワーキングパーティでは、情報と課題を共有し、私学リーダー同士のネットワーク構築を図っていく。

◆ 会 期 ◆ 平成 27 年 10 月 2 日（金）

◆ 会 場 ◆ ホテルグランヴィア広島 外

広島県広島市南区松原町 1-5 （JR 山陽新幹線・広島駅直結）

☎082-262-1111

◆ 参加者数 ◆ 30 名

◆ 参加対象 ◆ A 次世代リーダー（次世代の理事長・校長等）を志す者

B ニューリーダー（新任の理事長・校長等）

C 次世代リーダーを育成する現職リーダー（現職の理事長・校長等）

◆ プログラム内容 ◆

①パネル・ディスカッション

テーマ 「伝統の進化と未来の創造～グローバル時代のリーダーとは～」

パネリスト 三 田 周 作（株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 代表取締役社長）

パネリスト 近 藤 彰 郎（八雲学園中学高等学校 理事長・校長）

パネリスト 吉 田 晋（富士見丘中学高等学校 理事長・校長）

コーディネーター 木 内 秀 樹（東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長）

三田周作氏（株式会社近畿日本ツーリスト中国四国代表取締役社長）プロフィール

1965年生まれ。1988年立命館大学卒業後、近畿日本ツーリスト(株)入社、主に西日本エリアで、法人旅行営業に従事。2011年近畿日本ツーリスト(株)中国四国営業本部長、2012年分社化に伴い(株)近畿日本ツーリスト中国四

②パワーランチ

情報交換等による私学関係者のネットワークづくりの場。[情報交換・交流昼食会]

③学校視察

[広島女学院中学高等学校](#)（SGH 指定校）〒730-0014 広島市中区上幟町 11-32

中高一貫教育の女子校。1958年中学校創立（高等学校は1961年創立）。

広島女学院は、1886（明治19）年に砂本貞吉牧師により、聖書と英語の女子塾として誕生し、翌年、N.B.ゲーンズ宣教師を初代校長としてアメリカから招き、1890年米国南メソジスト教会等の協力を得、現在の地に校舎を建設。当時からキリスト教主義教育の伝統は現在も女学院を支え、創立から120年余を経て、幼稚園・中学校・高等学校・大学・大学院をもつ総合的な学園として、多くの卒業生を輩出している。昨年度より、文部科学省が開始した「未来のグローバルリーダーを育てるプログラム」であるスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、「国内外で活躍する女性」の育成を目標に、「世界につながる平和観を持った女性」「価値観の相違を乗り越えられる対話力のある女性」「合意を創り実践するリーダーシップを持った女性」の3点に重点を置いた教育を実践している。

④ネットワーキングパーティ

関係者間のネットワークづくりに資するための懇談会を開催します。（全員参加。懇談会費は参加費に含む）

◆ 日程概要 ◆

時刻	9 30	10 15	11	12 15	13	14	15	16	17 30	18	19 30	20
10/2 (金)		受 付	開 会 式	①パネル・ ディスカッ ション	②パワーランチ ・移動(※)		③学校視察			移 動	④ネット ワーキング パーティ	

◆ 講師・パネリスト・コーディネーター・指導員（順不同） ◆

三 田 周 作 株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 代表取締役社長

田 中 清 峰 学校法人広陵学園 理事長

近 藤 彰 郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長

木 内 秀 樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長

吉 田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長

中 川 武 夫 蒲田女子高等学校 顧問

◆ 専門委員・指導員（順不同） ◆

木 内 秀 樹 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長

近 藤 彰 郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長

山 中 幸 平 学校法人山中学園（如水館中学高等学校） 理事長

徳 野 光 博 学校法人東福岡学園（東福岡自彊館中学校・東福岡高等学校） 理事長

川 本 芳 久 （一財）日本私学教育研究所 事務局長代行

◆ 日 程 表 ◆

10月2日(金)〔会場 ホテルグランヴィア広島 3階 天平A〕

09:30	
10:00	受 付
	◇ 開会式 司会 川本芳久 (一財)日本私学教育研究所 事務局長代行 1. 開会 2. 主催者挨拶 (一財)日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋 (一財)日本私学教育研究所 所長 中川 武夫 3. 開催地代表挨拶 広島県私立中学高等学校協会 会長 田中 清峰 4. 日程説明 5. 閉式
10:15	◇ パネル・ディスカッション 司会及び講師紹介 徳野光博 (一財)日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員 テーマ 「伝統の進化と未来の創造～グローバル時代のリーダーとは～」 パネリスト 株式会社近畿日本ツーリスト中国四国 代表取締役社長 三田 周作 八雲学園中学高等学校 理事長・校長 近藤 彰郎 富士見丘中学高等学校 理事長・校長 吉田 晋 コーディネーター 東京成徳大学中学高等学校 理事長・校長 木内 秀樹
12:15	◇ パワーランチ 【会場 3階 飛鳥】
13:15	移 動 (貸切バス)
14:00	◇ 学校視察 司会 広島女学院中学高等学校グローバル教育推進部 宇津 剛 1. 全体会 【会場：ゲーンズ記念ホール】 (1) 挨拶及び学校紹介 広島女学院中学高等学校 校長 星野 晴夫 (2) SGHとしての取り組みに関する説明 グローバル教育推進部 安宅 弘展 (3) 視察授業についての説明 グローバル教育推進部 主任 高見 知伸 ※以下のプログラムは3グループに分かれて実施します。視察校の指示に従ってください。 2. 施設視察 3. 授業視察①「Peace Studies 授業」 ◎高校1年A～E組 【会場：高校チャペル】 ◎高校2年A～E組 【会場：ゲーンズホール】 4. 授業視察②「Global Issues 受講者対象のCritical Thinking 授業」 ◎高校1年はGlobal Issues 受講者、高校2年・高校3年は有志 授業担当者 福原 正大氏 (igs 代表取締役、一橋大学大学院特任教授、 広島女学院中学高等学校グローバル教育アドバイザー) 【会場：大講義室2】 5. 全体会 (1) 視察校からの総括(まとめ) 【会場：405教室】 (2) お礼のことは 次世代リーダー育成専門委員長 木内 秀樹
(14:45)	
(15:15)	
(16:20)	
(17:20)	
	写真撮影の際は、生徒の顔がはっきりとは写らないようにご配慮ください。 視察校では、必ず名札を着用してください。 視察校内では禁煙となります。
17:30	移 動 ※ネットワーキングパーティの会場がバスの通行および駐車車が困難な場所のため、恐れ入りますが、徒歩にて移動いただきます。所要時間は約15分です。早めに到着された方は会場内で休憩が可能です。
18:00	◇ ネットワーキングパーティ〔会場 酔心本店〕 司会 川本 芳久 1. 開会挨拶 (一財)日本私学教育研究所 副理事長 山中 幸平 2. 乾杯 (一財)日本私学教育研究所 副理事長 山中 幸平 3. 懇談 4. 閉会挨拶 次世代リーダー育成専門委員長 木内 秀樹
19:30	ネットワーキングパーティ会場にて解散。

【概要】

平成 27 年 10 月 2 日（金）、ホテルグランヴィア広島及び広島女学院中学・高等学校にて、「平成 27 年度全国私立中学高等学校 私立学校専門研修会 次世代リーダー育成部会」が、参加者 30 名を得て開催された。

部会の狙いを、「伝統の進化と未来の創造～グローバル時代のリーダーとは～」とし、午前中のパネル・ディスカッションでは、木内専門委員長をコーディネーターとし、企業と私学のトップリーダー開催県企業代表の三田周作・株式会社近畿日本ツーリスト中国四国代表取締役社長、日本私立中学高等学校連合会会長を務める吉田晋・当研究所理事長、東京私学代表の近藤彰郎・東京私立中学高等学校協会会長を迎え、経営者・教育者としての思いを聴き、グローバル時代の教育とリーダーのあり方について意見交換を行った。

午後からは、会場を広島女学院中学高等学校へ移し、スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、国内外で活躍できる実践力あるリーダー育成を目標に据え展開されるグローバル教育の授業視察等を行い、私学のリーダー像を探った。プログラムの最後に、ネットワーキングパーティを開催。懇親や情報交換・共有を中心に、私学リーダー同士のネットワーク構築の機会を設けた。

【開会式】

●主催者代表挨拶 （一財）日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋

新しい研修会である次世代リーダー育成部会は今年で 6 回目となるが、私学人の深い思いがそこにはある。私立学校は、それぞれの学校の創立者がそれぞれの思い・建学の精神を持って、自らの財産を提供し、立ち上げた一つひとつが異なる学校で、そこに公立学校との差別化がある。しかし、今の時代に公立学校は特化した学校をどんどん作っている。新しい教育、良い教育にはコストがかかる。それぞれの学校が新しい教育に向かって進んでいく中で、次世代を担っていくリーダーの方達には、経営におけるバランス感覚をしっかりと養って頂きたい。私立学校は厳しい時代を迎えており、教職員一体となって学校を伸ばし、個性豊かな、魅力のある学校にしていく必要がある。それには、ここにいる先生方が建学の精神を受け継いで、時代に合った教育へといかにもって行くかにかかっている。そしてぜひ、この機会に今まで会ったことのない、同じ思いを持った他県の私学の先生方とのネットワークを作り、互いに知恵を出し合い、助け合ってほしい。私立学校一校一校のために全体が良くなる、そういう社会にしていかなければならない。

●主催者代表挨拶 （一財）日本私学教育研究所 所長 中川 武夫

今の教育改革は、本来は中央教育審議会で根本的な議論をすべきところが、政権主導によりはじめに結論ありきで次々と進められている。東京オリンピックに向けてこれから様々な改革が現場に下りてくる。その時に皆さんのような学校の幹部はどうするのか。各学校のリーダーの力量が今まで以上に問われてくる時代だ。その時に何もしなければ大きな波に飲み込まれてしまう。蓋を閉じて波が過ぎるのをじっと待つのか。あるいは来る波に乗って楽しむのか。どういう舵取りをしていくのかは、それぞれの学校のリーダーに任されている。そのためには、新しく且つ正確な情報を常につかむこと、そして視野が狭くならないように幅広いネットワークを持つことが肝要だ。当研修会のプログラムから何かを持ち帰って頂きたい。当研究所は今後も様々な研修の機会を持って、先生方と一緒に考えていきたい。

●開催地代表挨拶 広島県私立中学高等学校協会 会長 田中 清峰

当研修会で広島県にお集まり頂き感謝申し上げます。これからの経営者は何をすべきか。学校を継続することは社会的使命でもあり、次世代を担うリーダーの皆さんへの期待は大きい。研修プログラムは新しい発見や新しい出会いの好機となる。自身は急遽理事長に就任し、右も左もわからない時に研修会に参加し、各地の理事長と知り合い、多くを学んだ。その経験が今日非常に役立っている。この機にご縁を作って頂きたい。



【日私教研 理事長 吉田 晋】



【日私教研 所長 中川 武夫】



【広島県私立中高協会 会長 田中 清峰】

【パネル・ディスカッション】

木内専門委員長をコーディネーターとし、企業と私学のトップリーダー《開催県企業代表の三田周作・株式会社近畿日本ツーリスト中国四国代表取締役社長、日本私立中学高等学校連合会会長を務める吉田晋・当研究所理事長、東京私学代表の近藤彰郎・東京私立中学高等学校協会会長》を迎えて、経営者・教育者としての思いを聴き、グローバル時代の教育とリーダーのあり方について意見交換を行った。

【木内】急速にグローバル化が進む中で、私学は建学の精神を守るだけでなく、進化・発展させていく必要に迫られている。2020年に新しい学習指導要領が小学校で、高校は2022年から学年進行で実施される。また、グローバル人材の育成、アクティブ・ラーニング、ICTといったキーワードが出てきていますが、私学としてどう取り組むべきか、近藤先生からお願いします。

【近藤】現在、アクティブ・ラーニングという言葉が盛んに聞かれるようになりましたが、教育も進化していかなくてはならないのは事実である。現状、公私を問わず現場の先生方は、法律等で定められた活動範囲の中で一生懸命教育活動を実践している。変化や進化は、その土台の上になければならない。

東京私立中学高等学校協会としてもアクティブ・ラーニングについて、様々な理解がある。生徒に活発に発言させるのがアクティブ・ラーニングと思われていますが、深い理解と運用までには至っていないと感じる。今年の8月末、東京の理事長・校長部会で、アクティブ・ラーニングをテーマに、研修会を実施した。アクティブ・ラーニングは少数でないとできないと聞いていたが、お招きした講師の先生曰く、大学で教えている関係から人数は関係なく、200人、300人でも、できると言われました。アクティブ・ラーニングに定型的なものではなく、手法について質問すると、それは古いという言い方をされました。今後、アクティブ・ラーニングを取り入れていかなければならないのは事実ですが、私立学校のほとんどが言葉は違ってもアクティブ・ラーニングと言われる手法の教育に取り組んで来たのではないのでしょうか。今の時代に一方向の講義型の教育をしているところは、ほとんどありません。

現在、ゆとり教育や学校週5日制を実施している学校も、ほとんどないと思っている。そうすると、10年後、アクティブ・ラーニングはどうなっているのでしょうか。言葉だけに振り回されるのは、危険である。目の前に居る生徒たちを伸ばすにはどうすれば良いか、進化した方法はないか、ということを探るのは現場である。自分たちの学校で、どうすればアクティブ・ラーニングが生きてくるかを考えるのが今後の検討課題だと思っている。

【木内】吉田先生が委員を務める中央教育審議会等の動きはどうか。

【吉田】第2次教育振興基本計画の中では、グローバル人材とは、日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提とし、豊かな語学力、コミュニケーション能力、主体性、積極性、異文化理解の精神等を身につけて、様々な分野で活躍できる人材、という考え方である。

グローバル化については、その進展とともに政策上の課題や社会問題に対する対応策は、政府によるものよりも市場原理に任せた方が良いとする動きが広がりました。つまり、教育にある種の競争を取り入れて、それをグローバル化と言っている面がないとは言えません。しかし、グローバル化とは、自分とは異なる文化・歴史の人と共存していくことであり、そのために自らの国・地域の伝統文化を理解して、尊重する態度を身につけ、それを今度は英語をツールとして、互いに理解していくということである。

次期学習指導要領については、高校の教育課程も2022年から変えようという動きですが、教育課程企画特別部会「論点整理」の中で、子どもたちが何を知っているかだけでなく、知っていることを使って、どのように社会・世界と関わるか、よりよい人生を送るかということであり、知識・技能・思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性等、情意面に関わるもの全てを総合的にいかに育てていくかだと示されている。

アクティブ・ラーニングについては、アメリカの大学で始まった講義に基づいて学生たちが話し合い結論を出していくというディープラーニングと、アクティブ・ラーニングを混同している部分がある。アクティブ・ラーニングは、講義のもとに、討論、ディベート、プレゼン、小テスト、演習、実験など様々なことを組み合わせ初めてアクティブ・ラーニングになります。そういう意味では本来の教育こそがアクティブ・ラーニングだろうと思う。ただし、前回の（学習指導要領の）改訂で小中学校ではアクティブ・ラーニングが進んできて、子どもたちが思考力・問題解決能力等を身につけても、高校に上がった途端に、今まで身につけてきた能力が発揮されていないと言われている。しかし、高校には大学入試があって、十分に時間をかけてアクティブ・ラーニングに取り組む余裕はありません。大学入試が思考力・判断力を身につけた人を優先的にとるという制度が変われば、必然的に高校以下の教育は変わっていく。

このままいけば子どもたちは、あれもこれもやらなくてはならないと迷子になってしまうのではないのでしょうか。高校が自分たちの行くべき姿を見極めて方向付けをする必要があると思う。

【木内】企業の立場で三田社長、お願いします。

【三田】大きくマーケットが変わったことを実感している。海外からの観光客は1988年には200万人くらいでしたが、今年は約2000万人、10倍規模になりました。メーカーも、国内にあったマザー工場でさえベトナムやタイに移して、そこではその国の人がマネージャーとして新製品の開発に関わるなど、ものづくりの面でもグローバル化が進んでいる。日本企業全体の状況では、グローバルとリーダーシップと一緒に語られることが多く、国際競争の中で組織も変わりつつあります。自分で仕事・予算・ノルマを稼ぎながら、部下の指導もやるという現状に置かれている。そんな状況の中で必要になってくるのは、リーダーシップとフォローシップである。リーダーが方向を示し、自ら考え能動的に動ける組織である。そのような背景の中で、教育でもアクティブ・ラーニングが、より強く言われているのだと思う。私どもの会社では、旅行を作っていますので、ブレインストーミングを奨励している。チームのメンバーが企画を出した時、自分の仕事の手を一旦止めてでも、仲間のためにブレインストーミングを行います。私立学校は、建学の精神をきちんと貫くことによって真のグローバル人材を育成し得るのではないのでしょうか。

【木内】 中学高校の教育についてはいかがですか。

【三田】 海外経験豊富で、優秀な新入社員や若い世代の人が多いため、モチベーションを高めて使いこなす器量が企業側に求められていると思う。企業にとって、グローバル化とダイバーシティとはセットである。

例えば、当社の広島支店には中国人スタッフが多く、また社員の60%は女性です。母親になって働いている人もいれば、60歳を過ぎて嘱託で働いている女性もおります。そうした違いを超えてマネジメントする力が企業側に求められているという感じがある。

【木内】 グローバルやアクティブ・ラーニングはコストがかかります。IBは、日本に根付くのでしょうか。

【吉田】 今、文部科学省はIB認定校200校計画を推進していますが、実際IBのディプロマプログラム（DP）を導入したのは26校、うち私立学校は10校である。今の日本の教育現場にIBを合致させることは大変難しいでしょう。コストについては、200校計画での毎年の予算は約8千万円。この予算は、平成29年度から実施される日本語DPの試験の開発に使われ、導入校に補助されているわけではありません。IBを導入するのであれば、国が生徒一人当たり100万円位補助を付けて、日本の大学がIBDPの生徒を無条件で入学させる位のことをやらないと無理だろうと思う。ただ、IBの考え方、プログラムの考え方は素晴らしいので、本当はやった方が良いと思います。

【木内】 学習指導要領があるから、特区でないとIBに取り組みないのではないのでしょうか。

【吉田】 学校教育法施行規則を改正し、特例の枠が広がって、認定校の普通科では36単位を上限にIBDPの単位を認めることになった。ですから、8割ぐらいがIBのプログラムでも認められる。IBDPだけではなく、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州のディプロマもある。

【木内】 では、会場からのご意見をどうぞ。

【清水・東京私学教育研究所所長】 ここに文章があるので読みますと、「単に教師の話聞き、教科書を読むというだけでなく、必要な資料を集めたり、それをもとにして討議したり、まとめたり、その結果をいろいろに表現したりするような多様な学習活動が行われる」とある。これは、アクティブ・ラーニングのことを言っているように読めますが、実は昭和26年に文部省が出した学習指導要領の試案である。60年前に、既にアクティブ・ラーニングという言葉は知らなくても、私立学校は似たような取り組みを工夫しながら実践してきた歴史がある。ですから、言葉に振り回されない方が良いでしょう。私たちは自分たちが行ってきた教育に自信を持った上で、さらにより進化させるにはどうしたら良いかということを考えるべきだと思います。

【吉田】 大学入試改革で評価を1点刻みにしていないのを見ると、公正を保つための新しい考え方が出てきた。今までは1点刻みのため、マークシートで行われてきた。

【木内】 近藤先生の学校では、グローバルについてどのような取り組みをされていますか。

【近藤】 学校の創立者はアメリカで事業をしていました。グローバルな社会で生きるためには英語ができないと駄目だということで、昭和13年の開校当初から英語教育に力を入れて行ってきた。現在、中学3年生の夏休みにアメリカで海外研修を実施している。カリフォルニア大学サンタバーバラ校（UCSB）を中心に、留学期間は3カ月ですが、事前・事後を合わせて9カ月のプログラムで行っている。米国・カーピンテリアのケイトスクール（私立高校）との交流は20年間続いている。本校がSGH（スーパーグローバルハイスクール）に応募し

ていないのは、英語教育がメインの学校ですので、それを貫くためには改善したいと思った時に、すぐに変えられる方が良い。縛りが無い方が良いからということである。プログラムは、かなり中身の濃い進化したものになっている。

また、英語のプログラムと同時に日本の文化も「芸術の日」として設定し、触れる機会を設けている。日本の事を知らずして海外に出ている、認めてはもらえない。

【木内】吉田先生の学校のSGHの核は何ですか。

【吉田】21世紀は環境問題だと考え、2000年に校舎を建て替えた際、環境を意識した建物にしました。リサイクル資材を使い、雨水を植栽に使うようにし、太陽光エネルギー、風力エネルギーも若干入れました。子どもたちの普通の学校生活の中で、知らず知らずのうちにエネルギーを大切にできる環境が整備されました。5年程やってきた中で、サステナビリティをテーマに据えました。SGHは、語学力の育成のみに重点が置かれているかと思っていたが、本来、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力・問題解決力等の国際的素養も身につけるといふ部分が大きかった。ですから、ゼミ的な授業や、地域の環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユネスコの指導によるESD教育（持続可能な開発のための教育）も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請した。

【木内】最後に、三田社長、お願いします。

【三田】「すぐに役立つことは、すぐに消えていく」という言葉を大切にしている。回り道をして汗をかいて努力したこと以外は、本物にはならないと感じている。グローバル人材には、答えがありません。グローバル人材とは、何を成したいか、将来どんな貢献ができるかを語れる人だと思う。

当社としては、それぞれの学校や理事長先生が、どんな生徒を育て将来どんな人になりたいのかを良くヒアリングしながら、先ほどの近藤先生の話ではありませんが、日本に居ながら本物の日本文化に触れると言ったグローバル化もあり得ると思う。真のパートナーとなるために、しっかり話し合いをすることが大切であると感じている。

【木内】ありがとうございました。



【木内 秀樹 専門委員長】



【パネリスト】



【東京私学教育研究所所長 清水 哲雄】

【パワーランチ】

名刺交換と自己紹介から始まり、昼食をとりながら活発な情報交換が行われた。



【学校視察：広島女学院中学高等学校】

【全体会】

●挨拶及び学校紹介：広島女学院中学高等学校 校長 星野 晴夫

本校は今から129年前、1886年（明治19年）に砂本貞吉牧師によって創設された。

当初、砂本牧師は船員になることを志して渡米したが、滞在中にキリスト教に触れクリスチャンになり、神学教育を受けて帰国した。創設から1年後、27才の女性宣教師であるN.B. ゲーンズ先生が校長として派遣された。ゲーンズ校長の尽力により学校は組織化され、幼稚園、小学校、中高、大学、大学院をもつ総合的な学園として、多くの卒業生を輩出している。現在、小学校は設置していない。

もう一つのルーツが、今から70年前の被爆である。中心地から1.5kmほど離れているが、生徒・教職員330余名の犠牲者を出した。戦争の悲惨さを学校として語り継いでいかなければと、教職員組合が中心となって「夏雲」という被爆証言集を作った。これは後に、「サマークラウド」と英語にも翻訳し、生徒に平和を語り継いでいる。当時の先生方の情熱もあり、その後、私たちの学校では平和教育を重要に考えるようになった。

10数年前、本校では大学進学実績等にあまり拘っておらず、生徒が行きたいと思った所へ行ければ良いというような自由な校風だった。しかしながら、幾度となく進学実績を意識させられていくことがあった。本校でも広報部を作り、学校の中から意識を変えていこうと難関大学受験に対応したカリキュラムにも変更した。その中で、本校が本当に目指していくべき物はなにかと考えたとき、本校の歴史的背景も鑑み、平和教育を中心としたグローバル教育であった。

2014年からSGHの認可をいただいた。膨大な資料作成等もあったが、女学院として長年培っていた平和教育があったからこそ、大学の先生方にもアドバイスをいただきながら認定に向けて動いて行くことができた。

改めて、プログラムの中心（土台）にあるのは平和教育である。今まで本校が発展させてきた教育でもあるので、グローバルな視点と合わせながら現在SGHの取り組みを行っている。

●SGHとしての取り組みに関する説明 グローバル教育推進部 安宅 弘展

①本校のグローバル教育は何をやっているか、②その為の組織作り、③成果の3点を中心にお話をさせていただきます。

本校が、新しい教育を取り入れなければいけないと思った背景は、①最近、生徒が内向き思考で、外に目を向けていない。また、自主的な活動に参加する生徒が減っている。②論理的な思考が育て切れていない。勉強はするが個々の知識が繋がっていない。③主体性の未発達。言った事はやってくれるが、自分から興味をもって動いてくれない。以上の課題をどうすれば克服できるか考えていたときに、グローバル教育に出会った。

本校の掲げるグローバルリーダー像は、「核の惨禍のない世界を作り出すしなやかな女性」である。グローバルと言うと世界の中で競争に勝っていくのも大事だが、私たちは勝敗ではなく、この世界を成長に導いていける人をグローバルリーダーと呼びたいと思っている。今まで教育として実践してきた部分もあるが、それぞれバラバラだったり、同じ内容でもセクションが違う事があったので、「Peace Studies」という名称で一つにまとめた。

内容の紹介として、6年間答えのない問いを生徒に投げ掛け続ける。生徒自身が深く考え、自分なりの答えを紡ぎ出し続けることで、それを各学年で体系化し、広島原爆から始まり、具体的なトピックから抽象的なものまで自分に対する理解から他者に対する理解に、足元の自分が外へ、他者へ、世界へ、と広げられるような構造になっている。また教室の中だけではなく、外に出て現地で会った人と交流を深められるフィールドを作りたいと考え、ミャンマーやカンボジアにも行っている。

続いて、新しい教育への舵取りと組織編成について話したい。これはSGH指定前の流れであるが、グローバルと言い出したのが、ちょうど2年前である。この時に初めてグローバル教育検討委員会ができた。当初、職員室での風当たりも強く、教員は生徒に新しいことをさせるのは好きだが、自分が新しいことに挑戦するのは抵抗感があった。そのような中でも、申請書を作成する段階で11名の教員が集まり、膨大な資料作成や面接等の練習も行いながら、最終的にSGHに指定していただいた。管理職の強力なリーダーシップがあったからこそ実現できた。これが生き残りをかけた「新しい戦略」であり、グローバル教育を必ず実施するという強い後押しをいただいた。よく若い先生の意見を聞きたいと言われるが、管理職の先生がしっかりサポートする体制の中で、「やってみろ」の一言があったので、新しい物を生み出すことができたと思う。周りの声に影響されずに、この仕事に専念できたのは、校長がはっきりと「戦略」であると宣したからである。

その後、既存の委員会等を統廃合し、グローバル教育推進部にまとまる事になった。各先生が同じ目標を毎回生徒に伝える事で、明確な目標・成長ビジョンを生徒にも教員にも打ち出すことができる。この流れを一人でも多くの先生に加わっていただくために、本校では平和の時間（Peace Studies）を、総合学習の時間で実施している。総合学習の担い手は、各担任である。教科も年齢も違う担任集団で、嫌でも新しい教育を行わなければならない状況になった。共に考えていく先生が増えたことが、とても良かった。

また、30代の教員で構成した「企画推進委員会」という新しい校内分掌を立ち上げた。これは、やりたいこと等をまとめ、校長・教頭に公式に提案できるという分掌であった。公式な仕事として認めてくれたことが、後々のチーム作りに役立った。

これまで、能力別クラスは行っていなかったが、入学時に英検準2級以上を取得している生徒が英語の知識や英語でのコミュニケーション能力をさらに高めることができるよう、特設クラスを開設した。海外の大学への進学を目指している生徒もいる。

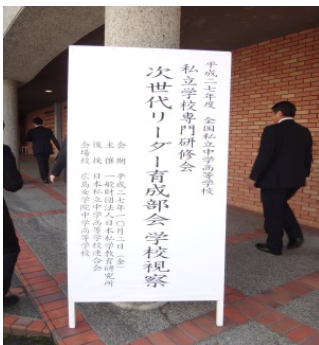
また、高校1年生から受講できる新科目として、中3から高1に上がるときに30名を選抜し、Global Issues (GI)を設置した。意欲の高い生徒を選抜し、主に英語で平和学や核軍縮の探求を行う。

日本の学生は自己肯定感が低いと言われるが、本校のアンケートでは、全国の平均値より高い。アクティブ・ラーニングの影響と思っている。

生き残りのためにグローバル教育を選択したが、学校であるので、生き残りとか存続というのは手段であっても目的ではない。教員として子どもたちに向き合っている以上、子どもたちの将来の目標や理想を見つけ応援をしたい。新しい時代の中で輝いていけるように、共に歩んでいきたい。

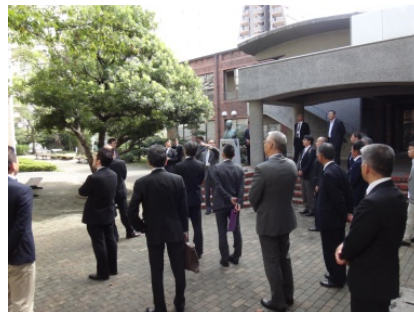
【お礼の言葉】 木内 秀樹 (一財)日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員長

星野校長先生を初め、広島女学院中学高等学校の先生方には、視察を受け入れていただき、感謝の意を申し上げます。参加者された先生方には満足いただけたのではないかと思います。教育は奥が深く、自分たちも工夫を凝らしてやっていかなければならないと責任を感じた次第である。グローバル教育やアクティブ・ラーニング、SGH等疑念もあったが、一つの回答として受けとって良いのではないかと。参加された先生方の各学校で色々と工夫していただきながら、人を育てるために、より良い形を作っていただきたい。



【広島女学院 正門】

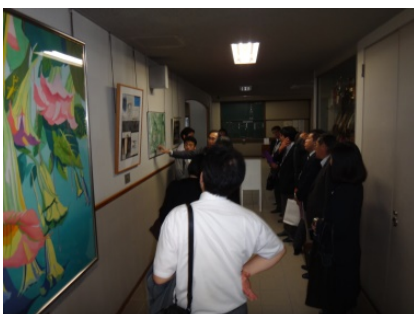
【校舎】



【慰霊碑】

【ゲーンズ像】

【SGHの取り組みについて】



【視察中の参加者】

【Peace Studies 授業視察】

【全体会：お礼の言葉】

【ネットワーキングパーティ：酔心】

ネットワーキングパーティと称して、参加者同士の積極的なネットワークづくりに資するため、全員参加による教育懇談会が行われた。山中幸平・当部会専門委員による挨拶の後、参加者同士が意見・情報交換を通じて懇親を深め、ネットワークづくりの第一歩となった。



～研修プログラムについて参加者から寄せられた声～ 回答数/参加者数 14名/30名（回答率 46.7%）

問1 本研修会への参加の主目的

- ◎新任校長として、自分自身の見識を広めるため。
- ◎次世代の学校を考える。広島女学院 SGH を見学したかった。
- ◎内容プラス交流。
- ◎校長就任以来、次の校長・教頭（管理職）を育てる義務を感じて。
- ◎情報収集・交換。
- ◎アクティブ・ラーニングの取り組みについて勉強したい。
- ◎時代や教育改革など「変化」の中で本質を見極め、自校で何をすべきかを考えるヒントを得るため。
- ◎いろいろな学校の先生方と知り合うため。グローバル教育の現状を学ぶため。
- ◎管理職になったときのため。
- ◎最近の私学行政の流れへの補足と、次世代リーダーの先生方との交流。
- ◎全国私学のリーダーの方々の学習指導に対するお考えをお聞きしたいと思い、参加させていただきました。
- ◎創立者の思いを継ぎながら経営していくための覚悟や教育に、新しさ古さはあるのか。教育の進化とは何かを知りたいと思い参加いたしました。
- ◎時代の変化に対応しながら、私学がいかにか独自性を発揮し社会に貢献していけるかを、実績ある諸先生の講演を倒聴することで、自身の考えをまとめ自校の教育に反映させたい。

問2 本研修会のプログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお聞かせください。

パネル・ディスカッション

- ◎私学の中心的な先生方から今一番の話題であるグローバル・SGH・IB等の話が中心に聞けて良かった。
- ◎アクティブ・ラーニングのとらえ方、中央教育審議会の動き、リーダーの在り方などを学ばせて頂きました。
- ◎文科省の動向。
- ◎英語教育の具体例などとても参考になった。IBについてもたくさんの考え方を聞くことができて良かった。
- ◎本校の現状で、SGHの指定を受けるには難しいと思う。大学受験に関係する事だけに、力を注いでいる感じがする。やはり人間教育を大切にしなければならないと思いました。
- ◎プログラムのテーマである「伝統の進化と未来の創造」についてパネラー三方、それぞれのお立場から有意義な見解を伺えた。特にアクティブ・ラーニングや英語教育について、高大接続の文脈で理解を深めることができたのが良かった。またそれに対する企業側の評価を聞く機会となった。
- ◎現代の中高教育の課題について理解しました。国の教育の方向を見据え、グローバル時代のリーダーとして自身がしなければならないことは何か考えさせられました。
- ◎「持続的な発展」を掲げた政策が市場原理や企業側の要請から出され、大学教育の不備が大学入試や高校教育改革の要請となっていることがわかった。私学が以前行っていた授業体制を基本としながら、それをどう拡充するかがポイントであると思った。
- ◎日本の教育政策（文科省主導）において、根本的な「平和主義」に重点がおかれている。公立では仕方ないかもしれないが、多様性を求める（社会の動き）なら、教育における柔軟性、多様性が必要であろう。私学はもっとその点を追及すべきであろう。教育政策においては、教員の養成に力を注ぐべきである。
- ◎文科省が考えることは何か。その本質を見極めながら現場の学校をしっかりと見据えて教育していきたい。大学入試とアクティブ・ラーニングの問題はよく考えたい。

- ◎具体的なことが参考になった（グローバル、アクティブ・ラーニング）。国の流れや、問題点も分かった。パネラーの本音・本気度に感銘を受けた。
- ◎道徳教育が日常的（登校から下校まで）などところで、常に実施実行されているという内容が心に残りました。また、大学入試と能動的授業展開の問題も勉強になりました。
- ◎グローバルな人材、アクティブ・ラーニング、IBについてパネリスト3氏の意見は、参考になった。特に、三田氏の「心のグローバル化ができていない」という意見は、これからの教育ビジョンの中に取り込まなければならぬ。
- ◎グローバル人材の育成。アクティブ・ラーニング、ICT……。自校では、目の前にいる生徒にどんな力をつけさせ、その為にはどんな教育を柱とすべきか、再認識しました。

パワーランチ【昼食・情報交換会】

- ◎短い時間でしたが、テーブル内で情報交換することができました。
- ◎他の先生方と交流でき、有意義であった。
- ◎家庭教育の重要性や、女性の社会参加等の中で学校教育のあり方を考えることができた。
- ◎名刺交換ができた。
- ◎各校・各県の先生方との情報交換ができ、有意義でした。
- ◎初対面の先生方とも貴重な情報交換をさせていただきました。
- ◎たくさんの先生方と話すことができ、貴重な体験ができました。
- ◎一緒に食事をした2校が幼稚園（保育園）と高校という学校があり、本校と同じで共感することがあった。
- ◎円卓の食卓であったので、情報交換が円滑に行われた。他県の私立学校の生徒募集戦略、教員同士の連携のあり方など短い時間の中に有意義な話を聞くことができた。

学校視察【広島女学院中学高等学校】

- ◎授業内容まで見る事ができた。プレゼンの工夫や、生徒の発表の態度が非常に良かった。
- ◎屋上が良い。
- ◎施設もさることながら、生徒のみなさんの落ち着いた雰囲気と意欲的な学習態度に感心しました。
- ◎素晴らしい取り組みにより、生徒の意識や行動が確実に育っているのに感銘を受けました。
- ◎SGHならではの取り組み・平和教育を見学させていただき、大変感動した。勉強になりました。
- ◎PSでは、生徒さんのすばらしいプレゼンでした。中1からの教育の賜物だと思いました。
- ◎授業の様子を見学しながら、現代の子供たちに求められることが自身の時代とは異なることを改めて確認できた。人が育つということは美しいことである。教育が目指す所は、ここであると考えさせられました。
- ◎学校改革の組織づくりやプランの進め方など参考になった。PSの夏休みの研究発表において、自らの問題を解決する姿勢や多面的な考え方がよく身につけており、理想的なアクティブ・ラーニングであると感じた。「百聞は一見にしかず」と言われるように今回の実践例はとても参考になりました。
- ◎国際教育・平和教育・人権教育が合わさって、生徒たちがしっかりと自分の意見を言い、よく調べてから発表していた。会場からも意見もが出されている姿を見て感動した。裏での先生方のご指導の賜物ではないか。
- ◎教育の質の高さを感じました。生徒の意識の高さには敬服です。校舎は正に教育の棟でした。魂の入った真心教育が日々展開していることがよくわかりました。生徒と先生の両方の満足度の高い学校であった。
- ◎「グローバル教育」を狭い意味でとらえず、「平和教育」を元（核）に取り組んでいるのは大変すばらしい。原爆による被災地である歴史的な真実を踏まえているのが良い。SGHの組織作りは参考になった。（学校改革となっていた）SGHが学校全体の総合学習と結びついている。核になっているのはPSである。（すばらしい）PS授業について、各学年のテーマにそって、問題点や課題を調査・分析し、その後、学年全体で共有（発表会）しているのが良い。プレゼンに慣れている。ALの実践は、新鮮であるが指導者の力量がいる。誰もができることではないので、実用的かどうか疑問である。本日実践している授業は、大変良かった。
- ◎生徒によるプレゼンが素晴らしい。教員がどの程度関わっていたのか。すべての生徒がそのようなプレゼンができるのか。どのような指導されているのか。本校でも3ヶ月留学を終えて高2がプレゼンするが、あのようなでき具合にはならない。

ネットワーキングパーティ【酔心】

- ◎名刺交換が進みました。
- ◎とても良かった。

その他・全般

- ◎教員自身がモチベーションを上げていくための研修体系など、学ぶことの多い機会となりました。
- ◎広島女学院らしいSGHを見て、参考になりました。今回、この研修に参加できてよかった。
- ◎この研修会は非常に勉強になりますので、この職にあるかぎり参加しつづけたしたいと思います。
- ◎女学院の生徒さんの活動は本当にすばらしいです。マスコミや社会に対する意見をきちんと述べる姿勢に、教育レベルの高さを感じました。
- ◎知識を教えるだけでなく、考えさせる授業の大切さ、それを深く考えさせることの重要性を学ぶことができた。

問3 貴職が最も重要視（または直面）する喫緊の課題・関心事の選択理由・具体例

「私学経営・学校運営」・・・3名 「生徒募集・公立の私学化」・・・2名
「特色教育・グローバル」・・・1名 「大学入試改革・高大接続」・・・1名 「教員育成・研修」・・・4名

【私学経営・学校運営】

- ◎管理職として今後も学校経営を考えなければいけないので。（私学の独自性を出しながら）
- ◎私学を取り巻く環境が刻一刻と目まぐるしく変化する中で、学校経営の舵取りを見誤らず、よりよい教育の提供を続けるためにも不断の学校改革を通じた経営努力と各私学団体を通じた行政への働きかけが今後の私学発展の為にも不回避と考える。
- ◎地方にとり学校運営は公立との関係性等も含め大きな課題。私学だからこそできる教育をこれからも大切にできる運営について考えたいため。

【生徒募集・公立の私学化】

- ◎山梨という地域で、かつ公私の定員比率の中、生徒数が60%まで減少する。学校の特色をどのように出しながら、生徒数を確保するかが大きな課題である。
- ◎広報活動・生徒募集については継続した取組みができており、一定の成果が得られているが、公立の教育改革及び特色教育の中には疑問を持たざるを得ないものもあり、各県の情報や今後の動向に興味があるため。

【特色教育・グローバル】

- ◎教育が大きく変化しつつありますので、乗り遅れないようにと思っている。

【大学入試改革・高大接続】

- ◎高大接続改革・大学入試改革に伴い高校の授業改革が喫緊の課題である。こうした状況の中、本校において、いかなる特色を出せるかを現在模索しており、充実させるための教員養成・学校改革（カリキュラムを含む）を研究している。

【教員育成・研修】

- ◎これからの少子化に向けて、全教職員が一丸となって取り組むためには教員が変わらなくてはならない。
- ◎やる気を引き出し、教員としての自覚、教員としての役割を理解し、1人1人の生徒を大切に将来性のある生徒の育成のために。
- ◎10年後の私学を取り巻く環境（少子化）が急激に変化するので、どのような対策が必要かということ、今検討している。その一環として次世代リーダーの育成は必須である。特に現在の教職員の養成は当然であろう。基本的に管理職は自前で育てるということを方針にしているので、教員集団のスキルアップ及び管理職の教員を育てる事が一番最優先されるべき課題である。
- ◎教師はともすると傲慢な態度で生徒に接することがあります。未熟な大人（先生）が、未熟な子ども（生徒）を教えていることを忘れず、教師のスキルもさることながら”人間力”を高めて包容力のある教師が増えることを望んでいる。

問4 来年度以降の本研修会、日私教研の研修事業、中高連の事業・活動に対するご要望をお書きください。

- ◎私学とは何か、私学の使命・私学経営について、全国の同志の皆様のお話をお聞きしたい。
- ◎来年度以降、新たに検討される学習指導要領と、引き続き高大接続・入試改革の具体的な流れ、先進校の取り組みをお願いしたい。
- ◎学校改革。
- ◎今年で3回目の参加になります。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ◎初めて参加させていただき、ありがとうございました。
- ◎国家の成長戦略の中で、今後中等レベルを含めた教育全体がどのような意思を求められているか。10年後の教育を見据えた各校の現状の教育の取り組みについて意見交換できるテーマでのプログラム、文科行政のキーマンの登壇、グローバル化教育等の先進校への視察を、10～11月期開催していただければと思う。
- ◎「道徳」という教科がはじまるが、私学に対しても強化されようとしている。大阪府の私学課も文科省の意向をそのまま受け継いでいる。キリスト教系の学校では、すでに「宗教科」で取り扱っているが、強制力をもって指導されている。かなり問題。なぜ私学は問題視しないのか。もっと協力を働きかけるべきである。

都道府県別参加者数

都道府県名	参加申込数	都道府県名	参加申込数	都道府県名	参加申込数
青森	1	山梨	1	広島	4
宮城	1	愛知	1	山口	1
千葉	1	滋賀	1	福岡	4
東京	3	大阪	7	鹿児島	2
富山	2	兵庫	1	14都府県・計30名	

日私次世代リーダー育成部会開催

私立学校の発展・進化について討議

一般財団法人日本私立教育研究所(吉田晋理事長、中川武夫所長)が10月2日、広島市内で開いた私立学校専門研究会・次世代リーダー育成部会の中で実施されたパネル・ディスカッションの概要を掲載します。

言葉だけに振り回されるのは危険 自校での活用探るのが課題

木内 急速にグローバル化が進む中で、私学は建学の精神を守るだけでなく、進化・発展させていく必要に迫られています。2020年に新しい学習指導要領が小学校で、高校は2022年から学年進行で実施されます。

パネル・ディスカッション「伝統の進化と未来の創造〜グローバル時代のリーダーとは〜」

また、グローバル人材の育成、アクティブ・ラーニング、ICTといったキーワードが出てきていますが、私学としてどう取り組むべきか、近藤



広島市内のホテルで行われた次世代リーダー育成部会のパネル・ディスカッション

必然的に高校以下の教育は変化

木内 吉田先生が委員を務める中央教育審議会等の動きはどうか。吉田 第2次教育振興

ものづくりも海外からの観光客は10倍に

1988年と比べて海外からの観光客は10倍に増えています。三田 海外経験豊富で、優秀な新入社員や若手世代の人が多く、モチベーションを高めて使いたいと考えている企業側から求められているという感じがします。

吉田 学校教育法施行規則を改正し、特別の枠が広がって、認定校の普通科では36単位を上限にIBDPの単位を認めることになりました。

木内 企業界の立場で三田社長、お願いします。三田 大きくマーケットが変わったのを実感しています。海外からの観光客は1988年に200万人くらいでしたが、今年には約2000万人、10倍規模になりました。

IBの導入 考え方、プログラムは良いが今の教育現場では大変難しい

木内 グローバル化の開発に使われ、導入校だぞうと思いが。クティブ・ラーニングは補助されているわけですが、コストがかかります。IBを導

木内 学習指導要領がア州のディプロマもあり。吉田 学校教育法施行規則を改正し、特別の枠が広がって、認定校の普通科では36単位を上限にIBDPの単位を認めることになりました。

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。

自分教育に自信持って、進化を

木内 では、会場からを集めたり、それをまとめるご意見をどうぞ。清水哲雄・学校法人駒

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。

教育は私学から

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。

語学力育成だけではないSGH グローバル人材に答えはない

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。

グローバル人材に答えはない

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。

SGH

木内 近藤先生の学校のプログラムで行っている。吉田 21世紀は、環境問題を意識した建物環境問題、リサイクル活動などによるグローバル人材育成、再生可能エネルギー、さらにユニスコの指導によるESD教育(持続可能な開発のための教育)も本校の教育と合致することが多くあったので、初めて申請したのです。